

医学部図書館への質問

2006
34 医学部図書館
回収率81%

2018
31 医学部図書館
回収率74%

選択回答

質問1. 貴大学の病院内に患者の方向けの「図書室」はありますか。

ある→質問2.へ

ない・わからない→質問3.へお進みください

16 (47%)

18 (53%)

22 (71%)

9 (29%)

質問2. 質問1.で「ある」とお答えした方にお伺いします。

(総数22)

(1) 病院内図書室と何らかの形で、業務連携や交流を行っていますか。

・行っている

3 (19%)

1 (5%)

・現在は行っていないが具体的に図書館と協議中である

1 (6%)

0 (0%)

・検討中であるが具体的ではない

3 (19%)

1 (5%)

・行っていない

9 (56%)

20 (90%)

(→質問4にお進みください)

質問3. 質問1.で「ない・わからない」とお答えした方にお伺いします。

(総数18)

(総数9)

1) 附属病院の患者の方が直接来館・利用される頻度はどの程度ですか。

・ほぼ毎日

1 (5%)

0 (0%)

・週に数回

2 (11%)

0 (0%)

・月に数回

3 (17%)

2 (22%)

・半年に数回

5 (28%)

4 (45%)

・年に1, 2回

3 (17%)

1 (11%)

・まったくない

1 (5%)

2 (22%)

・不明 無回答

3 (17%)

0 (0%)

2) 患者の方へのサービスはどのように行われていますか。

・学外一般利用者と同じ

17 (95%)

8 (89%)

・利用証の作成などに便宜を図る

1 (5%)

0 (0%)

・直接来館はご遠慮いただく

0 (0%)

1 (11%)

・その他 ()

0 (1%)

0 (0%)

3) 今後、院内で患者図書サービスが計画された場合、図書館として連携するご予定はありますか。また、理由についてもお聞かせください。

(理由:

・図書館から積極的に連携を呼びかける

2 (11%)

2 (22%)

・病院から要望があればする

4 (22%)

3 (33%)

・する予定はない

4 (22%)

1 (12%)

・内容による

8 (45%)

3 (33%)

記述回答 (2018)

●病院図書室と連携していますか

○している

・資料受入・目録

○していない

・管理運営の在り方が、図書館のノウハウを必要とする形態ではない

・寄贈書の転送などは行っているが、定期的な交流はしていない。相互の建物がはなれており、あまり対面で話す機会がない。

・業務連携や交流を行う理由が見つからない

・人員が足りない。学生教職員サービスで手いっぱいです。

・人員不足のため

・立ち上げまでは医学部図書館、運営は医療サービス課、人員、予算等の都合で

・図書館立ち上げの際は図書館職員も検討会議に参加していたが、開室後は特に業務連携や交流の要望がない

・病院医事課患者支援センターが運営している。特に要望がない。患者図書室のサービス整理はボランティア(病院)が担当。資料収集はセンターが各診療科に依頼と聞いている。

・不明。病院ではボランティアが実施しているようである

・本を譲ったりといったことはあるが、ボランティアによる運営のため、業務としての連携はしていない

・要望がない(同様記載 8室)

・要望がない。患者さんは第一義のサービス対象ではない

・要望がない。図書館サービスの業務委託の対象ともししていない

●病院図書室をつくることになったら

○積極的に参加

- ・地域貢献のためにも患者サービスへの寄与は必要と考える。
- ・利用サービス、選書、配架等のアドバイスを行ないたい

○内容による

- ・人的・予算の問題があるため
- ・人員配置が難しいため
- ・計画された場合は検討する

●公共図書館とのどんな連携をしているか

- ・連絡便による貸出サービス
- ・図書相互貸借
- ・県立図書館との相互協力協定に基づく県内図書館資料横断検索と相互貸借
- ・市立図書館のサービスポイントとして、市立図書館資料の貸出・返却・予約など
- ・県立図書館インターネット予約資料受渡サービス
- ・資料相互貸出サービス、協働事業（同一期間、同一テーマでの展示など）
- ・市立図書館と連携し「図書館で健康いきいき講座」を実施（10月に4回目の実施予定）昨年県立図書館との相互訪問研修を、テーマ「医療関係レファレンスへの対応について」で実施
- ・相互貸借・県内図書館物流サービスに参加
- ・現物相互貸借
- ・ILL研修会（医療系ではない）
- ・ILL業務
- ・相互利用サービスしていない

質問4. 病院との業務連携や病院の患者さんへのサービスについて、特に医療情報提供について、ご自由にご意見をお聞かせください。

・文献複写サービスについては既に一般向けにも提供しており、図書館等に対しては現物貸借も実施している。公共図書館との連携については、要望があれば前向きに検討したい。

・デジタルで出回っている膨大な健康・医療情報について、質と信頼性をサポートすることが重要になってるのではないかと。

・県立図書館とのILLを実施している

・公共図書館と連携しての図書館貸出や、一般市民へに利用公開により、サービス・貢献を行えるよう努力していきたいと考える

・県立図書館が診療ガイドラインコーナーを設置したことを伺い、当館でも診療ガイドライン及び癌取扱規約コーナーを設置したり、当館に闘病記や特別支援についての資料を探しにこられた一般市民には、横断検索システムを利用して公共図書館を案内するなど、相互に補完しあえる部分は有効に利用すべきと考える。

・病院を受診した患者さんが直接大学図書館に来館され、平易な内容の資料を求められることがあるが、まずは地元公共図書館等で調査してから、必要に応じて来館してほしい。

・県内の医療従事者の方には、図書館利用証を発行するなど、現在もある程度サービスの提供ができていますが、遠方の方や一般市民の方へも広く医療・健康情報サービスを提供するために、地元公共図書館と連携していくことが必要だと感じました。

・公共図書館を通しての文献複写サービス、一般市民の方への来館利用サービスは実施しているので、現行サービスの範囲内で可能なことはやっていきたい。

・県立図書館が中心となって、活発に活動しているので、協力ということで参加しています。一般の方へのサービスなら、今行なっている方式が適当であると考えます。

・県立図書館インターネット予約資料の受渡館となっている。大学病院の患者には患者図書室を案内している。当館は学生の利用を目的として、蔵書構築している。一般市民向け書籍は、ほとんど所蔵していない。図書館資料の案内はできても、医療・健康情報の提供は難しいとかがえている。

・無人開館時間を除き、一般の方々に公開しており、Walk in User利用可能なデータベースの検索も可能であるため更に何か行なう必要はないと思われる

・地元の県立図書館にも院内図書室があるが、いま現在当大学図書館医学分館とまったく業務連携や交流がないため、県立病院の患者さんの医療情報端末などについて、いきなり当館を案内されて困ったことが過去にありました。

・当市の市立図書館は一般市民向け衣料・健康情報サービスに力をいれている。一方当館は地域医療従事者へのサービスを重視している。市立図書館と大学病院との直接の連携も行われているので、住み分けたほうが良いと考える。

・業務連携については、望ましいことだと考える。本医学図書館では、少ない職員数で業務を行っており、さらにサービスを拡大することは難しい面がある。

・公共図書館との連携を図り、十分なサービスを提供したい。